

## 1章 祝辞

### 人間社会学部に期待する

実践女子学園理事長 井原 徹

実践女子大学の学部・学科編成は以下のとおり推移してきた。

戦後の学制改革によって、1949年に文家政学部（国文学科、英文学科、家政学科）が設置され、1965年には同学部を廃止し、「文学部」（国文学科、英文学科）と「家政学部」（食物学科、被服学科）が設置された。1995年には家政学部を「生活科学部」と名称を変更し、食物学科を食生活学科と改称、被服学科を生活環境学科と改称した。併せて生活文化学科を新設した。

2004年、実践女子大学に人間社会学部・人間社会学科が創設された。

本大学においては、1学部でスタートし、16年後に二つの学部に分けて2学部制にして以来、実に39年ぶりの学部増設であった。爾来人間社会学部は順調な歩みを進め、2011年には人間社会学部・現代社会学科を増設した。学部創設以降、人間社会学部は受験生を多数集める人気学部になっている。

人間社会学部創設以来の足跡を、数字と教学上の工夫で追ってみる。人間社会学部がいかに頑張ってきたかが、数字で理解できる。

#### 【入学定員—志願者—入学者】

	定員	志願者	入学者
2004年	140	413	183
2005年	140	747	157
2006年	140	576	162
2007年	140	664	173
2008年	140	619	173
2009年	140	921	165
2010年	140	1015	183
2011年	200	1017	218
2012年	200	1261	213
2013年	200	1416	233
2014年	200	1929	240

2004年の創設時の入学定員は140人、志願者413人、入学者183人であった。その後、徐々に増え、2010年、ついに受験生が千人を突破して1015人に。2011年にもう一つの学科「現代社会学科」を設置したが、学部統一入試を行い、2年次に各学科に所属させることにした。入学定員は各学科100人である。

#### 【教員数】

2004年=15人。 2005～2011年=19人。2学科以降2012年=10人+10人=20人。2014年=カリキュラム充実のため11人+11人=22人

【卒業生数】2007年卒業生から2013年度卒業生の合計=1189人

【就職内定率】2007年度卒業生97.4%（全平均97.3%）。2008年度95.1%（同94.4%）。2009年度85.9%（同83.8%）。2010年度78.8%（同81.6%）。2011年度91.4%（同86.8%）。2012年度94.9%（同90.7%）。2013年度93.4%（同91.9%）である。

全学平均よりも下回ったのは2010年度だけという結果である。人社の先生は就職の面倒見も良いという評価があるが、まさに日常の指導の成果であると言える。

#### 【教学運営上の特色・工夫】

新しい学部ゆえに新しい教学運営上の特色や工夫を取り入れて、学びを充実させている。「初年時から4年間の必修ゼミ」「授業内容の確実な理解と修得の促進のための履修単位数制限・キャップ制の導入」「GPA制度の導入」「セメスター制度の導入」「ワーク・ライフ・バランスに関する特別講義の実施」「教員をアカデミックアドバイザーとする少人数のグループ編成」を実施している。

私は当学園に2007年に来たので、創設当時の苦労や葛藤は知らないが、新学部設置に関して、相当な決断を持ってなされたことは疑問の余地のないところである。翻って考えてみると、もし実践女子大学に、人間社会学部が生まれていなかったら、いまの実践女子大学はどうなっていたらと想像してみたら良いと思う。大袈裟かもしれないが、実践女子大学の今日があったかどうか分からないのではないだろうか。

その意味から、人間社会学部を創設した全ての関係者に深く敬意を表するものである。同時に人間社会学部に新規に採用され、新参学部の遠慮の中で頑張って学部を支えてきた全ての教員各位に、深く感謝の念を持つものである。伝統もなく、予算もままならなかったことを乗り越えて今日を迎えた。所属教員のただひたすらの意地がここまでの人間社会学部を創り上げたのだらうと思う。

学部創設10周年に当たり、理事長として、教員各位に敬意と感謝を届けたい。